専攻医の主張

消化器内科を専攻して

広島赤十字・原爆病院　消化器内科　坂本　愛子

8月に入り、まだまだ暑さ厳しい毎日が続く今日この頃。時がたつのは早いもので、この8月で私が消化器内科に入局することを決めて3年がたちました。大学5年生の実習で消化器内科を回っていた時、内視鏡で検査のみではなく治療を行えるという点に興味を持ち、いつか自分も内視鏡を触ってみたいという憧れを抱き医師になりました。初期研修で消化器内科をローテーションした時に初めて内視鏡を触らせていただきました。なかなか思うように観察が行えないことに難しさを覚え、少し落ち込んだ部分もありましたが、それ以上に喜びと楽しさを感じたことを今でも覚えています。後期研修の専攻については他の内科系の診療科とも迷っていましたが、最終的には内視鏡の楽しさが忘れられず、消化器内科を志すことに決めました。消化器内科は消化管・肝臓・胆膵とさまざまな臓器や疾患を診ることができる点、手技を行う機会が多く、診断から治療まで幅広く行える点に大きな魅力があると思います。実際、自分が上部消化管内視鏡検査で指摘した早期胃がんにESDを施行した症例があり、患者さんが無事退院された時は大変うれしかったのを覚えています。

現在、広島赤十字・原爆病院で後期研修をさせていただいております。カンファレンスと回診で一日が始まり、午前中は腹部エコーや上部消化管内視鏡検査、午後には下部消化管内視鏡検査、ERCP、肝生検などさまざまな検査や治療を行い、勉強させていただいております。毎日、目の前の仕事に精いっぱいですが、大変充実した日々を過ごしております。また、週に1回外来診療を担当させていただいております。限られた時間の中で患者さん一人一人の病態や背景を把握し診療を行うことに外来診療を始めた当初は難しさを感じていました。しかし、一人の患者さんを長期間にわたり継続して診ることができ、定期的に元気な姿を見せてくださることに喜びも感じています。

今年で後期研修医3年目となります。これまでさまざまな症例を経験させていただきましたが、消化器内科医としてはまだまだ経験が浅く、治療方針に悩むことや、手技の点においても力不足を痛感することも多いです。また、研修医や後輩医師への指導をすることも増え、指導することの難しさや自分の勉強不足を感じ、さらなる努力が必要と思う毎日です。上級医の先生方を目標とし、患者さん一人一人に最善の治療を行っていけるよう、今後も努力を続けていきたいと思います。

厚生労働省版

禁煙支援マニュアル（第二版）増補改訂版

厚生労働省（健康局健康課）において、禁煙支援マニュアル（第二版）増補改訂版がとりまとめられました。日常の禁煙指導にお役立て下さい。

なお、内容は厚生労働省ホームページ「たばこと健康に関する情報ページ」で閲覧することができます。

◆禁煙支援マニュアル

URL http://www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/kin-en-sien/